

「もしも」に備える！防災・救命の知識を楽しく習得

「みんなで学ぼう防災教室」を開催

連合青森は教育・文化活動の一環としてこれまで「囲碁将棋大会」や「カラオケ大会」、「地引網体験」などを開催してきた。今年は近年、自然災害が多発していることから、各家庭や職場において防災に関する危機意識を高め、有事の際に役立つ知識やスキルを習得することを目的に、8月19日(土)、八戸市にある「青森県立種差少年自然の家」で「みんなで学ぼう防災教室」を開催し、組合員とその家族、総勢34名が参加し、防災に関する知識を習得した。

昼前から開催したこの防災教室は避難所での模擬体験として色々な非常食を体験することから始まった。理科の実験を連想させるファイアレスヒーター

非常食選び



心臓マッサージ



マウスツーマウス



消防車の仕組み見学



を使い温めたアツアツのシチュー、水を注ぐだけでできるおにぎり、缶に入ったパンやせんべいなど皆で味わいながら楽しんだ。

第2部は防災オリエンテーションと題し、八戸東消防署のご協力をいただき、救命処置の仕方や煙ハウス体験、消火訓練などを行った。参加者のほとんどが未経験という救命処置は各自、人形を使いマ

ウスツーマウスと心臓マッサージを体験。救急車が到着するまでを仮定した心臓マッサージでは、皆、必死で汗だくとなった。また煙ハウスでは火災により煙が充満する室内で、どのように逃げ出すかを体験。煙は天井から滞留するため、鼻と口を覆い姿勢を低くし移動することを学んだ。



消火器での消火訓練



パーティーション作り



お絵描きでパーティーション

第3部の避難所設営体験ではダンボールパーティーションや防災グッズを作成。身近にある大きささまざまなダンボールを使い作ったパーティーションはお子さんたちのお絵描きも加わり、各家庭オリジナリティ溢れるものばかりとなった。

参加した女の子からは「夏休みも残り2日で宿題も終わっていない中、父親に誘われ渋々参加したが、胸部圧迫など体験したことがない救命処置や命を守る行動を楽しく学ぶことができ、参加して良かった」とうれしい感想もいただいた。

今回のこの体験が今後、有事の際に体が動き、命を守り、命を救える行動となるかもしれない。



2023平和行動 in 広島

語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和を実現しよう

連合は6月から9月までを「全国平和運動強化期間」と定め、平和4行動をはじめとする様々な運動を行い、戦争による惨禍が再び起こることがないように、恒久の平和を希求するとともに戦没者の霊を慰めるために取り組んでいる。

6月の平和行動in沖縄に続き、2023平和行動in

広島が8月5日（土）～6日（日）の日程で開催され、全国から連合組合員など1,735名もが参加した。連合青森からは山内会長代行と東青地協女性委員会の長利安沙実幹事、電力総連から木村涼聖さん、梶谷良さん、木村硯さんの全5名が派遣された。

私は、連合平和行動に参加して現地広島に足を運んだ。5日の「ピース・ウォーク」では、ガイドの方の説明で平和記念公園内を案内していただき、慰霊碑等を見た。瓦礫が散らばり崩壊した原爆ドームに、教科書では伝わらない爆弾の脅威とこんな景色が二度と起きてはならないと改めて感じた。原爆ドーム西側の相生橋が原爆の投下目標になったといわれ原爆投下がなければ、市民に慕われていた「広島県産業奨励館」だったのである。ガイドの方の説明で、一番印象的だったのは「国の為を命を捨てろ」と教育していた時代だったことだ。今の時代に生まれてよかったと心から思った。前日に見かけたデモ行進も未来の子供達の為に訴えていた理由もわかった。他人事ではなく日本全体が困るからだ。「連合2023平和ヒロシマ集会」では、1,175名が参加し、核兵器根絶と世界平和の実現を求める活動を行った。特に、水川編集委員の講話で高齢化により、年々活動困難になる被爆者の活動負担軽減と核兵器の脅威を風化させない為に「A I 登用案」が気になった。今の技術で実現可能ではないかと感じ、国のサポートが重要と感じた。被爆体験証言では、箕牧智

之さんから貴重な被爆体験を聞き涙が出た。東京大空襲も経験され広島へ疎開した5か月後に、原爆投下…。水を求め被爆者が家を訪ねてきた



原爆ドーム前にて
長利幹事（右2番目）

こと、一面焼け野原の中、父を探し被爆し自身も大病を患う。原爆投下時は約3000度の強烈な熱線と爆風で一瞬にして命を奪った。核兵器根絶の為にこれまでもご尽力いただき敬意を表したい。平和大使の高校生の活動も全国の高校生に知ってほしいと感じた。その後、連合・原爆死没者慰霊式では被爆者を偲び、献花と献水を行った。6日のTV放送で献花に訪れた被爆者が「武器を持たずに言葉で解決してほしい」と語り凄く胸に刺さった。本当にその一言に尽きる。

最後に、連合青森、役員の方々、貴重な経験をさせていただき大変ありがとうございました。

東青地協女性委員会幹事 長利安沙実（JP労組）

「平和とは何なのか」実際に聞かれると、すぐ言葉が出てこない。連日ニュースで流れているウクライナとロシアの状況を考えると、日本は平和だな。とは思える。しかし、昔は日本も戦争していたし、侵略だってやっていた。そういう歴史の話に興味があったので、私は広島へ足を運んだ。

初めに「ピースウォーク」に参加した。平和記念公園内の慰霊碑を巡りながら、ピースガイドの方の説明を受けた。歴史の教科書でしか見たことがなかった原爆ドームなど当時のまま残したものや被害に遭った人の為の像であったり、決して忘れてはいけないものだとして改めて実感し、説明を聞きながら目頭が熱くなった。そんな中、私が一番印象に残っている言葉は「爆心直下のこの一帯では人も家屋も全滅し、死の街に変わり果てた」という当時の残酷さを語り、恐ろしくて何回も息をのんだ。

次に「連合2023平和ヒロシマ集会」に参加した。被爆体験証言やG7サミットとヒロシマの講演があったが、「若者からのメッセージ」で高校生平和大使の子たちの本気で平和活動に向かう姿

勢に圧倒された。日本是世界唯一の被爆国という自覚のもと、核兵器のない世界を目指して日々、その思いを世界へ発信していた。広島へ訪れるまでそういう活動をしていたこと自体知らなかった自分はなんて無力なんだ。と感じるくらい一つ一つの言葉が胸をえぐるくらい刺さった。ただ、今回をきっかけに募金するだけでも「ピリョクだけどもリョクじゃない！」というスローガンのように、微力ながら自分なりに今どうすればいいかゼロだったものを変える努力をこれからやってみようと思った。

今回の研修は、改めて日本人として「世界の平和」について考えさせられるきっかけとなった。他人事ではないこと、後世に伝えなくてはならないこと、「もう二度と被爆者をつくりたくない」という思いを胸にこれからも「平和とは」について考えていきたい。



原爆の子の像

木村涼聖（電力総連）

「2023年度平和行動in広島」に初めて参加させていただきました。弘前地域電力総連からは、私と木村の2名参加しました。二人とも平和記念公園に行くのは初めてでした。

始めにピースウォークに参加しました。酷暑での参加となりましたが、たくさんの慰霊碑を見学させていただき、とても貴重な体験になりました。印象に残ったのは「原爆ドーム」と「動員学徒慰霊塔」です。

原爆ドームを見るのは初めてでしたが思っていたよりも大きい建物でした。核兵器が世界で初めて使われたのが広島であり、その悲惨さや恐ろしさを象徴するものだと感じました。原爆投下時は爆発点がセ氏百万度以上に達したそうですが、とても想像することができないくらい恐ろしいと感じました。今後このような建物が世界に増えないことを願いました。

動員学徒慰霊塔も見るのは初めてでした。全国で300数十万人もの学徒が動員されたそうです。自分よりも若い学徒たちが、青春の光輝と学究の本分を犠牲にして挺身したと伺いました。原爆や戦争というものは、子供の未来も奪ってしまう残酷なものなのだ改めて知ることが出来ました。この原爆で犠牲になってしまった方々のご冥福をお祈りします。

ピースウォーク後は「連合2023平和広島集会」に参加しました。そこでは連合広島会長の挨拶をはじめ、被爆体験証言や若者からのメッセージ、平和アピール等様々な事を聞くことができました。被爆体験証言をして頂いた箕牧さんは、核兵器の恐ろしさ・残酷さを伝えるために日本だけでなく世界で活動したり、平和大使の高校生の方々は「ビリョクだけドムリョクじゃない!」をスローガンに被爆地の声を世界に伝える活動をしたりしていることを知りました。地元の方々がたくさんの活動を通して、核兵器根絶の思いを訴えていることを知り、少しでも協力していきたいと思いました。

最後に、このような貴重な体験を経て広島や日本の核兵器・戦争根絶の思いを学ぶことができました。今回学んだことを自分だけのものとせず、周りの人に伝えることで、核兵器廃絶・恒久平和の実現に向けて、微力ながら協力していきたいです。

榎谷良（電力総連）



木村涼聖さん(左)、榎谷さん(中)、木村硯さん(右)

弘前地域電力総連から私と榎谷良が、毎年開催されている「2023年度平和行動in広島」に今年参加させていただきました。2名とも広島平和記念公園を訪れるのは今回が初めてとなり貴重な経験することができました。

初めに、ピースウォークに参加した際に特に印象に残ったのが二つあります。

一つが「原爆ドーム」についてです。一度は耳にしたことがある建物の名前ですが現物を目の前に連合広島の方の説明を聞き、当時の悲惨さと核兵器の恐ろしさを痛感しました。元の建物の名前が広島県物産陳列館という名前で、元は一般的な建物だったそうです。当時のこの建物に標的にされる理由があったのかわかりませんが、戦争が始まるとこんな一般の建物にでも核兵器または爆弾が落とされると想像するととても恐ろしく感じます。これからの日本に再び同じような建物ができる事態にならないことを願いました。

二つ目が「原爆の子の像」についてです。この像は当時2歳8ヶ月で被爆し12歳の若さで亡くなった佐々木禎子さんの死を悼んで、全国の青少年少女たちの募金により建てられたものです。この像の周りにはいくつもの千羽鶴が飾られており、これは禎子さんが死の直前まで生きる願いを託して折り続けた千羽鶴がモチーフとなっているそう

です。またこの像自体には「平和な未来への夢」や「明るい希望」といった平和を願う意味合いが込められており、当時の子供たちの平和への願い、思いが特に強く感じられました。

ピースウォーク終了後には平和広島集会に参加し、そこでの連合広島会長の挨拶や被爆体験証言、高校生平和大使からのメッセージなどから、地元の方々の核兵器・戦争に対する強い反対の意思を感じられました。今までテレビや教材でしか知る機会がなかったため、地元の方々の核兵器・戦争根絶への思いがこんなにも強いものだったのかと驚くと同時に、私たちも少しでもその思いを受け継がなければならないと思いました。

最後となりますが、今回の貴重な体験を経て広島の方々の核兵器・戦争根絶への思いや日本の現状を学ぶことができました。この学びと思いを青年委員会を通し若い年代から、少しでも広め受け継いでいければと思います。

木村硯（電力総連）



平和ヒロシマ集会

2023年9月行動予定 9月10日現在

- 9月11日(月) 10時30分 県労働福祉会館
「第2回最低賃金対策委員会」
- 9月12日(火) 13時30分 県労働福祉会館
「第13回四役会議」
- 9月13日(水) 17時45分 県労働福祉会館
「第2回食みみ実行委員会」
- 9月16日(土) 15時30分 県労働福祉会館
「立憲民主党県連との定期協議」

- 9月19日(火) 11時 県労働福祉会館
「第22回執行委員会」
- 9月19日(火) 18時30分 WEB
「第8回青年委員会幹事会」
- 9月30日(土) 10時 県労働福祉会館
「第4回女性委員会幹事会」

2023年10月行動予定

- 10月7日(土) 10時30分 東北町
「青年・女性委員会共催イベント『楽宴祭』」

ワークルール検定 2023・秋(初級)

<後援>厚生労働省
日本生産性本部



■検 定 日：2023年11月25日(土)・26日(日)

■会 場：青森県内テストセンター

※日時・会場については受検者各自、マイページから
選択してください。

■募集人員：60名

■募集期間：2023年9月30日(土)まで

～職場で役立つ法律知識を身につけられます！～

※申込み・詳細は連合青森(017-735-0551)またはウェブサイト(<http://workrule-kentei.jp>)へ

一般社団法人日本ワークルール検定協会



青森県の法定地域別
最低賃金は

深夜 (午後10時
～午前5時)

2023年10月7日～

898円

1時間
あたり

1,123円

25%
割増

下回ったら、法律違反！！

※最低賃金の金額未滿で働かせた場合は、使用者には
従業員1人あたり50万円の罰金が科せられます。

連合青森ホームページ
<http://aomori.jtuc-rengo.jp/>



連合青森facebook



東北ろうきん
20周年
キャンペーン

2023年
4月1日~
12月31日

ろうきんアドバイザー
高梨 瑞

詳しくはこちら

全員
もちろん！
対象取引をご契約いただいた方に
今治製フェイスタオル
をプレゼント!!

0120-1919-62
https://www.tohoku-rokin.or.jp (受付時間：平日 午前9時～午後5時)

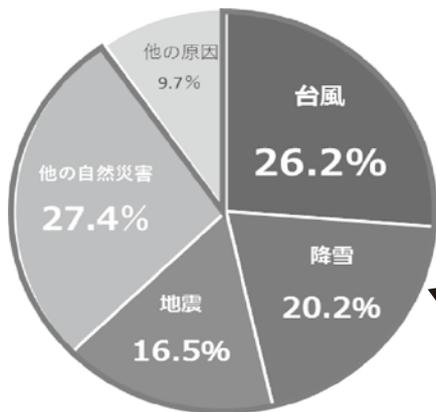
0223B003 **こくみん共済coop NEWS**

住まいる共済

火災共済・自然災害共済
風水害等給付金付火災共済・自然災害共済・個人賠償責任共済

住まいの保障点検実施中！

保障点検強化期間 ▶ 2023年11月30日(木)まで！



住まいの保障は、被災時にどのくらい
損害額をカバーできるかがポイント！
保障の点検はこくみん共済coopにお任せを！

自然災害による
支払いが全体の
90.3%！

ご相談・お見積りは、
お近くの窓口まで！

期間中に新規加入または増口・特約
付帯された方へはピットくん
オリジナルグッズプレゼント中♪



※こくみん共済coop 2021年度
「住まいに関する共済金」原因別支払い件数の割合

こくみん共済coop お住まいの
住所を入力
するだけ！
地盤診断 サービス

診断は
こちら

こくみん共済coop 地盤診断
当会ホームページのサイト内検索
[地盤診断]からもアクセスできます。



こくみん共済 青森推進本部
青森県労働者共済生活協同組合

「こくみん共済coop」は高利を目的としない保障の生協として共済
事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心
とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に
賛同し、たまたま、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生
協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

〒030-0802 青森市本町3-4-17
☎ 017-723-6031 (平日9時～17時 窓口受付時間は16時まで)

戦争という悲劇を繰り返さない・風化させない

「戦後78年・青森空襲パネル展」を開催

1945年7月28日、青森市は米軍の空襲で一夜にして焼け野原となり、多くの生命と財産が一瞬にして奪われた。この惨劇から78年。

連合青森は、戦争・空襲の実相を風化させず、この悲劇を再び繰り返さないことを願い、「戦後78年・青森空襲パネル展」を青森市内2か所で開催。青森市役所駅前庁舎では8月25日（金）・26日（土）の2日間、サンロード青森では8月26日（土）の1日のみの展示となった。

この2日間で来場者数は約180名、焼け野原になった青森市街地のパネルや当時の新聞記事を前に真剣に見入っている方や、子どもに説明をしているご家族連れも多くみられた。



市役所駅前庁舎での展示



サンロード青森での展示



連合青森2024地域ミニマム運動

個別賃金実態調査に参加し自身の賃金をしっかり把握し、24春季生活闘争を勝ち抜こう

中小組合では賃金制度が確立していないところが多く、定期昇給相当分や賃金カーブ維持分など金額を把握せずして、春の賃上げ交渉に挑んでいるケースが多く見られます。賃金実態を把握せぬまま会社と交渉すると、経営者側の言うがままになってしまいます。

連合青森ではこのような地場中小組合のための取り組みとし「個別賃金実態調査」と展開し、賃金データの分析（賃金カーブ維持分や定期昇給相当分の算出、賃金カーブ作成）をし、当該組合にお返しするという取り組みを行っています。

是非、この取り組みに参加し24春季生活闘争を勝ち抜くために前進しましょう。詳細は連合青森まで問い合わせください。

参考：昨年（2023年）地域ミニマム設定額

年齢	月収額	年齢	月収額
20歳	180,000円	35歳	234,000円
25歳	198,000円	40歳	252,000円
30歳	216,000円	45歳	270,000円

※地域ミニマム設定額とは連合青森に加盟する組合員の賃金実態調査結果を基に設定した年齢別最低水準値です。これより低い賃金では働かない、働かせないことを地域に広め、賃金の底上げを図る連合青森の運動です。

